

令和6年8月20日 発表

中小企業月次景況調査結果

令和6年7月分

～令和6年7月 データから見た業界の動き～

令和6年8月20日 発表

収益状況・景況感D.I値が上昇
人手・人材不足が売上回復の足かせに



山梨県中小企業団体中央会

〒400-0035 山梨県甲府市飯田2-2-1

TEL 055-237-3215

FAX 055-237-3216

<http://www.chuokai-yamanashi.or.jp/>

令和6年8月20日 発表

収益状況・景況感D.I値が上昇 人手・人材不足が売上回復の足かせに

■ 概 況

7月の県内景況のD.I値は、製造業・非製造業をあわせた全体で

売上高 +2ポイント（前年同月比 10ポイント↓）

収益状況 ▲2ポイント（前年同月比 18ポイント↑）

景況感 ▲4ポイント（前年同月比 10ポイント↑）となり、収益状況・景況感が前年同月を上回った。

業種別で、製造業では…

売上高 ▲20ポイント（前年同月比 ±0ポイント）

収益状況 ▲10ポイント（前年同月比 30ポイント↑）

景況感 ▲25ポイント（前年同月比 5ポイント↑）となった。

「諸物価の高騰による収益状況の悪化によって業界全体で景況感が低迷しており、状況が改善する見込みも薄い（業務用機械器具製造業）」や、「約2年ぶりにリピート品の注文が入ってきているが、今後この状況が続くかは2～3ヶ月様子を見ないと判断できない（電気機械器具製造業）」など、景況感D.I値の上昇（+5ポイント）が、製造業全体の傾向とは言えない。

また織物業からは、「経営者の高齢化・後継者の不在によって、加工業者（撚糸・染色・整経など）も含めて廃業する事業者が増加しており産地一環の構造が崩れかけている」との報告もあった。

一方、非製造業では…

売上高 +17ポイント（前年同月比 16ポイント↓）

収益状況 +3ポイント（前年同月比 10ポイント↑）

景況感 +10ポイント（前年同月比 13ポイント↑）となり、

収益状況・景況感D.I値が前年同月を上回った。猛暑が景況感を左右しており、「エアコン等の夏物家電の需要が増加している（電気機械器具小売業）」など好影響の一方で、「農作物の生育が悪く品質も低下、供給量も不足したことで仕入価格が上昇した（飲食料品小売業）」や、外仕事が多い事業者（警備業、型枠大工工事業など）からは、「熱中症などの体調不良者が続出している」との報告があった。

「人手不足によって大型物件を受注することができない（電気機械器具製造業）」、「果物や飲料水などの輸送需要が高まる時期であるが、時間外労働の規制によって対応が難しい（道路貨物運送業）」など、業種を問わず人手・人材不足が売上回復の足かせとなっており、全体の売上高D.I値が低下した。（▲10ポイント）

また製造業・非製造業ともに価格転嫁の状況に一定程度の進展がある様子が窺えた（全体の収益状況+18ポイント）が、「組合員の全社が単価アップを達成できている状況ではない（骨材・石工品等製造業）」や「住宅設備商品の価格が高止まりしており、工事額への転嫁について発注者から理解を得ることができるよう努力を続ける必要がある（管工事業）」など、厳しい状況は続いている。

中央会では、厳しい経営環境を乗り越えるため、専門家派遣や講習会等を活用した支援を強化しています。お気軽にご相談ください。

業界からのコメント

● 製造業

食料品 (水産物加工業)	年末に向けて、おせち原材料の大口取引があったため、売上は前年同月比108.8%となった。
食料品 (洋菓子製造業)	店舗拡大効果によって売上は前年同月比105%となった。猛暑であるものの、冷菓の売上は前年と大きな差はない。
食料品 (パン・菓子製造業)	前年同月と比べて売上は20%増加したが、収益状況はまだ集計できていない。人員の充足状況は変わらない。
繊維・同製品 (織物)	新製品開発に取り組んでいる組合員もあり、経営状況に大きな差がでている。 繊維業界全体で経営者・職人の高齢化や後継者不足が深刻な課題である。廃業する事業者も増えており、産地一環の構造が崩れかけている。 産地一体となり課題解決に向けて、前進していく必要がある。
繊維・同製品 (織物)	織物業は事業者によって行程（染色・整経など）が分業化されており、高齢化や後継者不足によって廃業する事業者が増えている中、産地として自立が難しくなっている。織物業界だけで解決できる課題ではないと考える。
木材・木製品製造	前年同月と比べて売上は▲30%となった。今後、状況はますます厳しくなると予測している。
窯業・土石 (砂利)	地域によって売上に差がある。製造に係るすべてのコストが上昇しており、売上が増加しても収益状況が改善しない。
窯業・土石 (山碎石)	前月と比べると生コンクリート向け製品の売上が10%増加したが、全体の売上は前年同月と比べて▲9%であった。 組合員は各社で価格転嫁の交渉を続けているが、全社が単価アップを達成できている状況ではない。一刻も早い妥結を目指して交渉し続けるしかない。
鉄鋼・金属 (金属製品製造業)	売上や収益状況など横ばいである。9月以降、状況が好転することを期待している。
一般機器 (業務用機械器具製造業)	前年同月と比べて売上は▲20%、収益状況は▲18%となった。諸物価の高騰によって十分な収益確保が困難な状況が続いており、業界全体で景況感が低迷している。状況が改善する見込みも薄い。
電気機器 (電気機械部品加工業)	前年同月と比べて収益状況は10%好転した。半導体製造装置の関連で約2年ぶりにレポート品の注文が入ってきている。これが一過性のものなのか、この先も続くのか、2～3ヶ月様子を見ないと判断できない。
宝飾 (研磨)	7月に甲府市で開催された展示会（ジェムストーン甲府）の集客・売上は前年並みとなった。
宝飾 (貴金属)	原材料価格の高騰によって、製品販売価格が前年同月比20%ほど上昇している。しばらくは厳しい状況が続くと予測している。

● 非製造業

卸売 (ジュエリー)	金の価格高騰によって売上は増加（前年同月比+30%）したものの、収益確保が困難な状況が続いている。 年末商戦に向けた企画が徐々に始まっているが、円安によって原材料価格が高止まりしている中で、商品価格は上昇、ロット数は減少すると予測している。
小売 (青果)	猛暑によって農作物の生育が悪く品質も低下、供給量も不足したことで仕入価格が上昇し、前年同月と比べ売上げは▲6%、収益状況は▲10%となった。

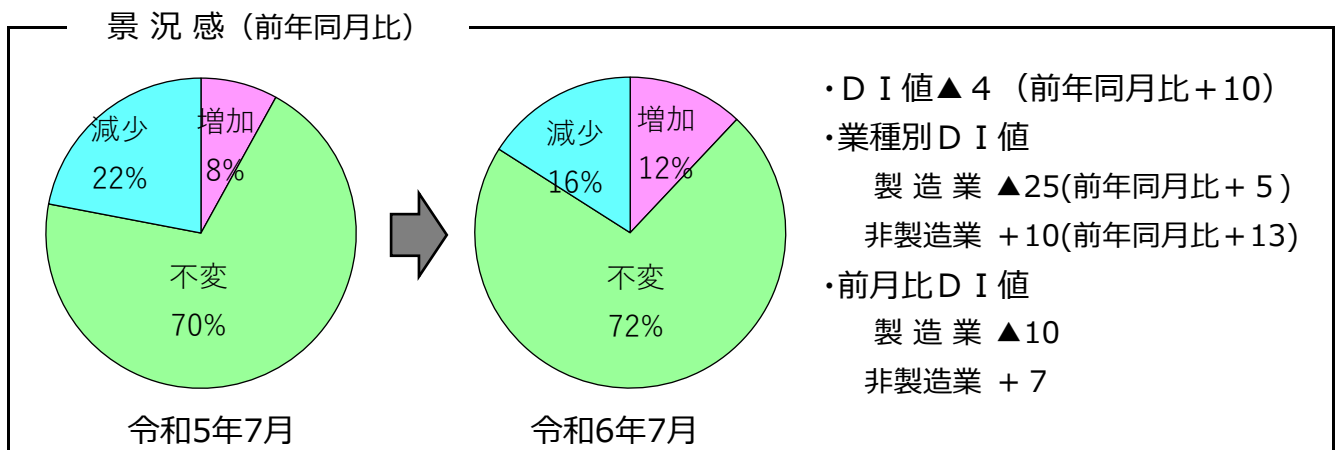
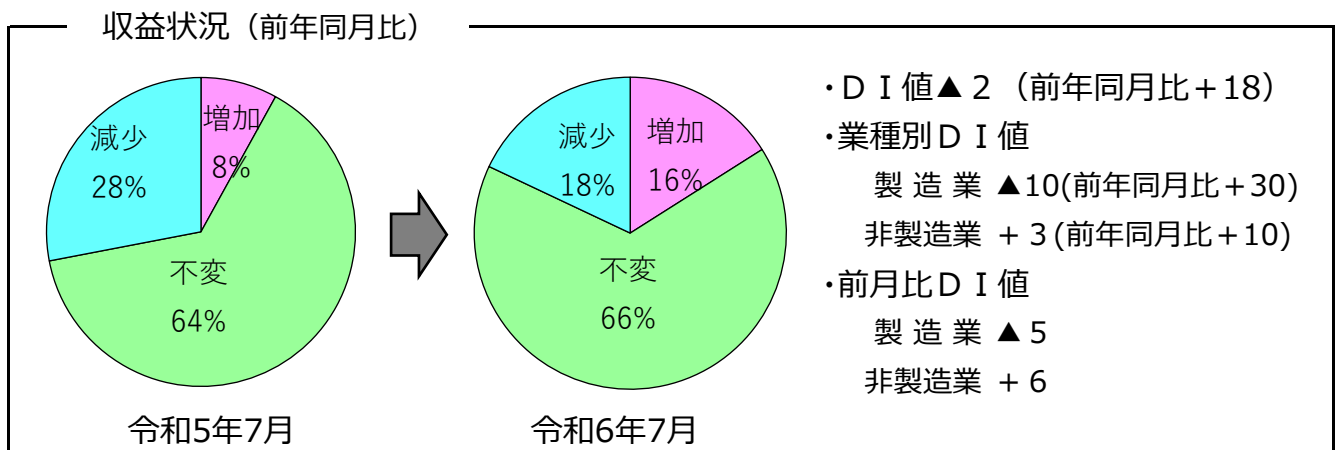
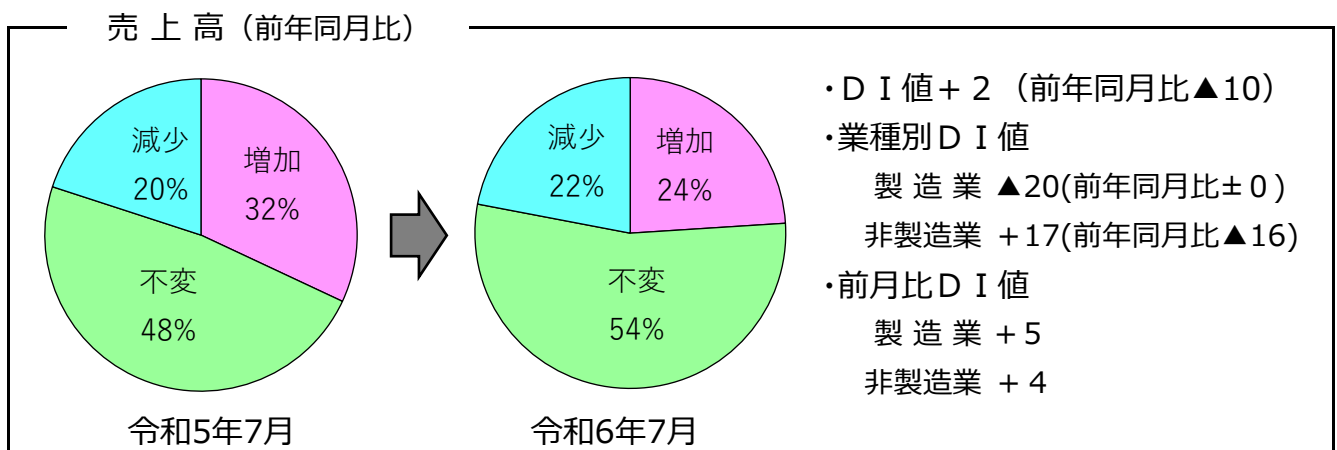
小売 (食肉)	円安によって輸入食肉の価格が高止まりしており、今後も値上がりし続けるとされる。
小売 (電気機械器具小売業)	前年同月と比べ売上は10%増加した。夏物家電の需要が堅調に推移しており、オリンピックの影響もありA V機器の売れ行きも好調である。
小売 (ガソリン)	原油価格の下落（月初88ドル/バレル→月末77ドル/バレル）に為替の円高進行も相まって原油調達コストが低下し、小売価格も5円程度下がった。 燃料油価格激変緩和補助事業が今年度末まで継続されるが、補助金額などの見通しが示されていないため、当業界のみならず運送業界などの先行きを懸念している。
商店街	大月駅周辺で有料駐車場が乱立し価格競争が激化しており、組合が管理する駐車場の売上が減少している。 国道20号沿いの店舗は客足減少によって厳しい状況が続いており、大月駅を利用する外国人観光客や周辺ホテルへの宿泊者などを、どのようにして商店街に誘導するかが大きな課題である。
情報サービス業	前年同月と比べて特に変化はなかった。
宿泊業	平日・週末ともに施設稼働は上昇傾向にあるが、気温上昇により光熱費の負担が大きくなっている。 夏休みシーズンであり、今後も多くのイベントが開催されるため、宿泊客の増加に期待している。
宿泊業	前年同月と比べ売上は9%増加したが、電力価格の高騰によって収益の確保が困難な状況が続いている。
美容業	原材料価格・人件費など上昇の中で収益状況は悪化しており、厳しい状況が続いている。
産業廃棄物処理	業界ではカーボンニュートラルの取り組みが活発化している。
警備業	警備単価上昇などの影響で売上げは前年同月と比べて5%増加したが、高齢を理由とした退職者や猛暑によって熱中症等の体調不良者が増えており、新規採用も難しく、人手不足が課題である。
建設業 (総合)	7月の県内公共工事は、前年同月に比べ件数は26%、請負金額も20%それぞれ増加した。7月末の累計件数は13%、請負金額は7%それぞれ増加した。 建設業保証会社による景況調査では、7～9月の景気動向について「悪化傾向がやや強まる」との見通しが示されているため、今後の動向を注視している。
建設業 (型枠)	外職である型枠工事は休憩時間を多く取る必要があるため、仕事効率が非常に悪い。 7月は猛暑日が続く、現場によっては熱中症や労災事故が多かったことから、休憩の時間帯など考慮する必要があると考える。
建設業 (鉄構)	工場のグレードと大手取引先の有無によって、手持量・見積件数に大きな差がある。また、ゼネコンの工程遅延による運搬延期、自社ヤードでの保管に追加費用が発生しており、改善の兆しがなく、2024年問題の関連で一部では運搬費についても臨時費用が発生している。
設備工事 (電気工事)	度重なる資材の値上がりによって工事見積が上昇し、失注も増えている。人件費も上昇する中で先行きに不安を抱えている。
設備工事 (管設備)	前年同月と比べ売上は9%増加したが収益状況は▲4%となった。住宅設備商品の価格上昇は落ち着きつつあるが、高止まりの状況は変わらないため、工事額への転嫁について発注者から理解を得ることができるよう、努力を続けていく必要がある。

運 輸 (バ ス)	人手不足の状況は変わらず、諸物価の高騰によって収益状況が悪化している。
運 輸 (トラック)	果物や飲料水などの輸送需要が高まる時期であるが、時間外労働の規制によって対応が難しく、業界全体で厳しい状況が続いている。

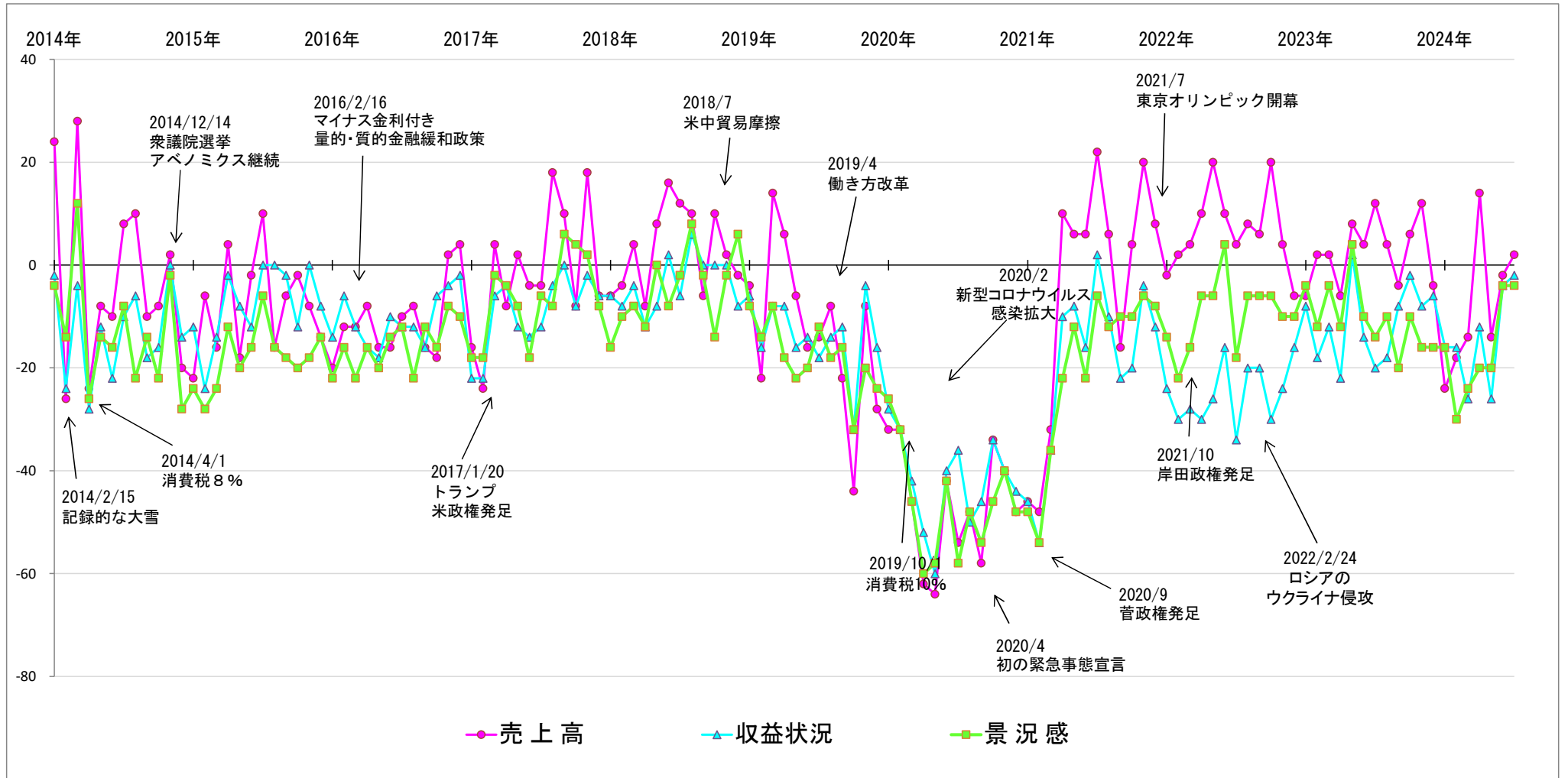
■ 対前年同月比及び前月比景気動向D I 値 (好転又は増加の割合から、悪化又は減少の割合を引いた値)

対前年・前月・当月	製造業			非製造業			合計		
	2023年7月	2024年6月	2024年7月	2023年7月	2024年6月	2024年7月	2023年7月	2024年6月	2024年7月
売上高	▲ 20	▲ 25	▲ 20	33	13	17	12	▲ 2	2
収益状況	▲ 40	▲ 5	▲ 10	▲ 7	▲ 3	3	▲ 20	▲ 4	▲ 2
景況感	▲ 30	▲ 15	▲ 25	▲ 3	3	10	▲ 14	▲ 4	▲ 4

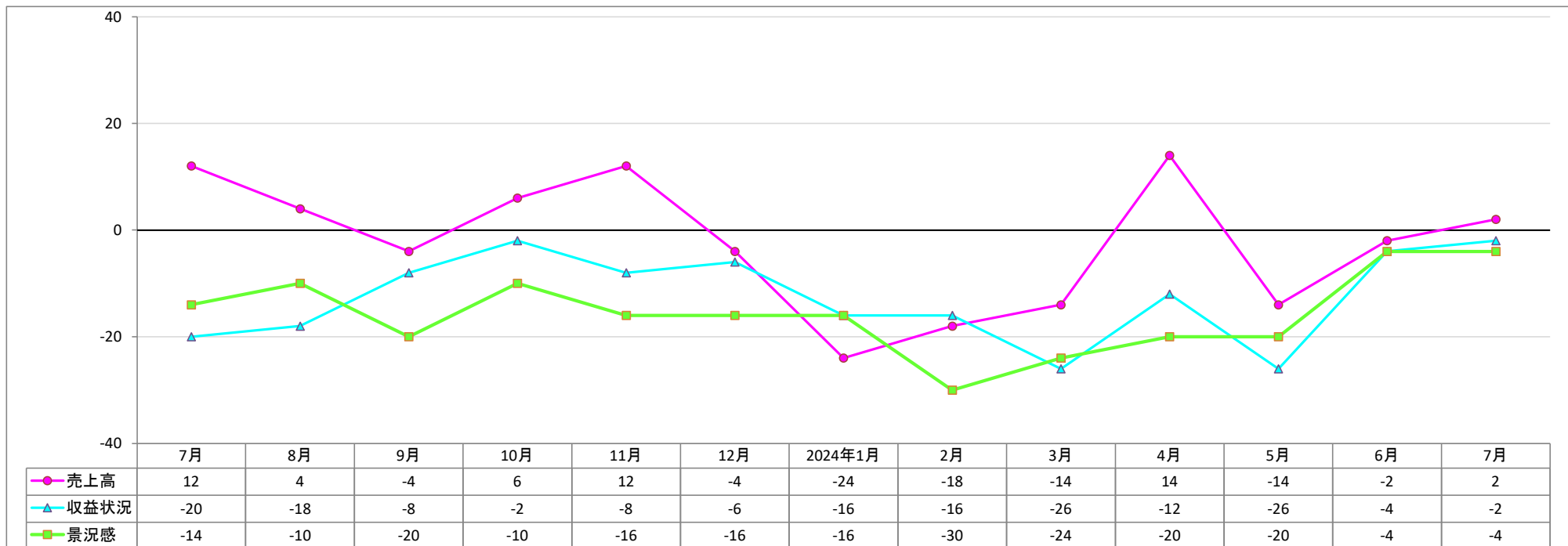
※((良数値÷対象数) ×100) - ((悪数値÷対象数)×100) = D.I値



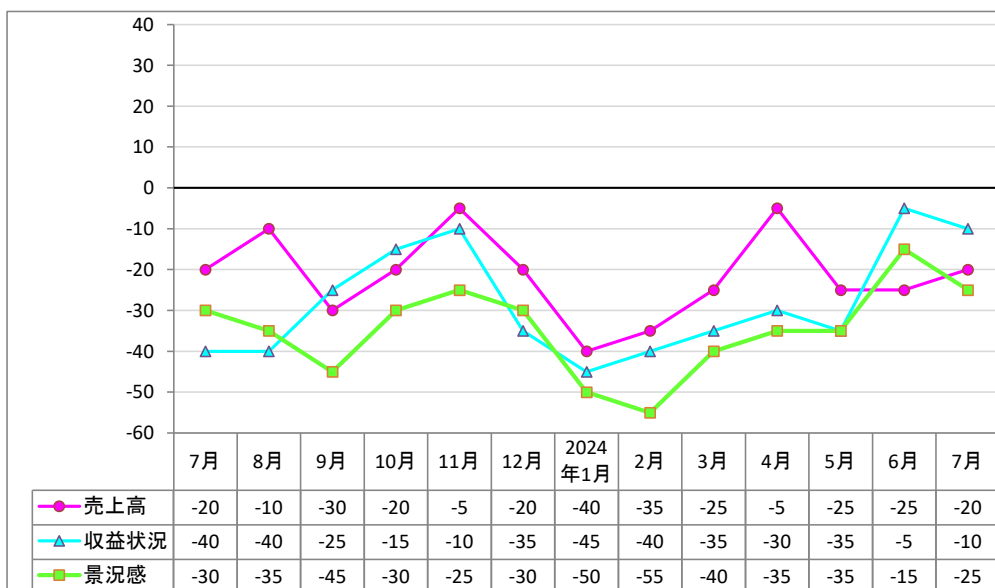
D.I値の推移①(過去10年間) 2014年1月~2024年7月



D.I値の推移②(過去1年間) 2023年7月~2024年7月



【製造業】



【非製造業】

